

共に生きて I



登山 万佐子

体重1500g未満で生まれた小さな赤ちゃんたちと家族の会「Nっ子クラブ カンガルーの親子」。2007年11月の初会以降も毎月、福岡県筑紫保健福祉環境事務所(同県大野城市)に集まりました。参加者は次第に増え、福岡県久留米市や飯塚市から毎月通ってくる方もいました。ほとんどが「わが子と同じぐらい小さく生まれた子が、こんなにいる」とこにます驚き、そして安心します。

2500g未満で生まれる低出生体重児(未熟児)は増えていますが、千g未満の超低出生体重児は圧倒的に少ないのが現実です。2012年

度の福岡県保健統計年報によると、全出生数約4万6千人のうち、1500~2500gの低出生体重児は9.02%ですが、千~1500gの超低出生体重児は0.48%、千g未満の超低出生体重児は0.35%です。私の長女綾美

不安語り 表情明るく

(8)のように、体重500g前後で生まれた子はもっと少ないはずですが。

でも、家族会には地域や年齢、病院を超え、同じような在胎週数、体重で生まれた子どもがたくさんいました。娘と同じように、在胎23週で生まれ、未熟児網膜症のまれな

2009年12月の未熟児とその家族会の定例会。親子で手遊び歌を楽しむ



た。こんな近くに仲間がいるとは思ってもみませんでした。在胎22週とか、体重300g台で生まれた子もいました。早産で小さく生まれた赤ちゃんを小学生、中学生まで育てたお母さんたちは心強い存在でした。彼女たちの育児経験は生きた教科書であり、心の支えになりました。

1歳になった娘の体重は約5kg。出産予定日から数える修正月齢で8カ月とはいえず、生後2~3カ月の赤ちゃんの平均体重とほぼ同じでした。街で見知らぬ人に「何カ月?」と聞かれて「1歳です」と答えれば、たいいて驚かれました。「私も月齢を聞かれるのが嫌だった」「適当に〇カ月と答えていた」…。会の参加者はみんな同じ経験と思いを味わっていました。

赤ちゃんに分厚い眼鏡を掛けているといふかしそうに見られたとか、酸素ボンベと鼻のチューブを見て「かわいそうに」と言われたとか、見ず知らずの人の視線や言葉がたらく、泣きたくなったという話もたくさん出てきました。

友人に「気にしすぎ」「すぐにできるようになる」と言われ、それ以上は話せなかつたという成長や発達の不安も、家族会では打ち明けられるという人もいます。人目をはばからず泣く人もいます。でも、会が終わるころには笑顔。その繰り返しで、集まるたびに参加者の表情は明るくなっていききました。

手術を受けた子に、初めて出会えました。誕生日も数カ月違い。すぐに母親同士で目に関する情報交換が始まりました。

また、在胎24週、500g台で誕生したという、娘より1歳年上の子が、同じ市に住んでいることも分かりました。「私も月齢を聞かれるの野市」

(「Nっ子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫